

お忙しくても、約 2 分間で読めます

# ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

## 経営者への活きた言葉

日本経済復活のカギは「ものづくり立国」しかない 三村 明夫 (新日本製鉄・会長)

1. 経済のあり方には大きくわけて「資源立国」「金融立国」「ものづくり立国」の三つがあります。資源のない日本がオーストラリアやブラジルのような資源立国を目指せないのは、当然のことです。また、金融に関しても、欧米のような長い年月をかけて蓄積されたノウハウがあるかといえ、疑問でしょう。とすると、残るのは「ものづくり」しかありません。
2. そもそも日本は、20 数兆円の原油、原料、食糧などを海外からの輸入に頼っています。どうしてもこの分の外貨を稼がなければなりません。それを支えてきたのが、自動車、電機・家電、産業用機械、鉄鋼などのものづくり産業です。そうして得た外貨で、食糧とエネルギー資源を購入し国民生活を支え、今度はその資源を加工して輸出する。その日本経済の構造は、今後も不変だと思えます。
3. 民主党政権が出した「新成長戦略」では、環境型ビジネスやマンガ・アニメといったコンテンツビジネス、観光、鉄道や原子力発電所などのインフラ輸出などが新たな成長の柱にあげられています。しかし、10 年以内にそうした新たな分野が自動車や鉄鋼といった既存の産業にとってかわり、雇用を生み出し、外貨を稼げるような産業に成長するとはとうてい思えません。やはりものづくり産業を維持発展させていくしかないのではないのでしょうか。

(参考:「文藝春秋」2011 年 2 月特別号)

## 経営者のための理念・哲学

### 野心と志の違い

1. 大阪天王寺師範専攻科の倫理・哲学の講師であった森信三先生の著書に「修身教授録」がある。そこで森信三先生が一貫して説かれているのが、「立志」の大切さである。「人間が志を立てるといことは、いわばローソクに火を点ずるようなものです。ローソクは、火を点けられて初めて火を放つものです。同様にまた人間は、その志を立てて初めてその人の真価が現れるものです。
2. 野心と志の違いについて、こう説く。「野心とか大望というものは自己中心のものです。すなわち、自分の名を高め、自己の位置を獲得することが、その根本動機となっている。ところが真の志とは、この二度とない人生をどのように生きたら真にこの世に生まれてきた甲斐があるかということを考えて、心中に常に忘れぬということでしょう。結局、最後は世のため人のためという所がなくては真の意味で志とはいいがたい」。本を読んで感心したり、人から話を聞いてその時だけ感激しても、すぐ忘れるようでは真の志ではない、ともいう。

(参考:「致知」:2011 年 2 月号)

## 新規成長分野

### 4800 円のビニール傘

1. 主要国首脳会議 (サミット) を警護する警察官が使い、選挙があれば候補者が大量に購入するビニール傘がある。東京都台東区で雨具などの販売を手がけるホワイトローズが開発した「カテール」だ、この傘、一見するとただのビニール傘だが、ほかのと比べて透明度が高いうえ、強い風が吹いても、傘があおられたり、簡単には壊れない堅さを持つ。
2. 現在、ビニール傘はコンビニエンスストアなどで 1 本数百円で販売しているが、カテールは 4800 円。この価格にもかかわらず、近年インターネット通販でも扱われ、年間 1000 本ほど売る定番商品に育った。安価な海外製品との競争は、モノ作り企業には避けられない。この競争を勝ち抜くには、製品・サービス、さらには事業モデルの高付加価値化を図り続ける姿勢が不可欠だ。

(参考:「日経ビジネス」2010 年 12 月 13 日号)

## 古典に学ぶ

### 肝心なときに決断できなかった

「毫りの小計を 審かにするも天下の大数を遣れ、智は誠にこれを知るも、決して敢行せざるは、百事の禍なり」

(訳) 訳してみますと、「細かい計算はしっかりしていても、天下の大局を忘れ、頭ではよくわかっている、決断をためらったのでは、何をしても失敗は免れない」というのです。

(参考:守屋 洋「リーダーのための中国古典」:日経ビジネス人文庫)